

全国海運組合連合会・第278回理事会議事録のご案内

去る10月1日開催致しました第278回理事会の議事録をご案内申し上げます。

平成20年10月29日
全国海運組合連合会

全国海運組合連合会
第278回理事会議事録

日 時 平成20年10月1日(水) 14:30~15:45

場 所 東京都・ホテルルポール麹町・3階・エメラルド

出席者 理事44名(別紙名簿の通り)

議 題

1. 理事並びに船主部会・砂利船部会委員交代の件
2. 内航海運暫定措置事業に係わる件
3. 内航燃料油等高騰対策の件
4. 砂利船の共有建造拡大の件
5. 創立50周年記念祝賀会開催要領の件
6. その他

(イ) 船主連絡協議会の活動報告の件

(ロ) 内航海運緊急連絡網報告の件

(ハ) 平成20年お中元物産品直販事業受注状況報告の件

(ニ) 今後の会議日程の件

議 事

定刻、出席理事の過半数を得て本理事会は、適法に成立し定款の定めにより小比加会長が議長となり開会挨拶の後、議事に入った。

議 題 1. 理事並びに船主部会・砂利船部会委員交代の件

本件について事務局は、以下の通り二組合(連合会)からの交代願いを報告した。

(以下、敬称略)

1. 理事交代願い

組合名	東海内航海運組合
新任者	三浦信吾氏
事業所役職名	名古屋港平水汽船協業組合理事長
旧任者	市川隆久氏

2. 船主部会委員交代願い

組合名	東海内航海運組合
新任者	三浦信吾氏

事業所役職名 名古屋港平水汽船協業組合理事長
旧任者 市川隆久氏

3. 砂利船部会委員交代願い
組合名 九州地方海運組合連合会
新任者 山平鉄雄氏
事業所役職名 有限会社協和海運代表取締役
旧任者 関 三吉氏

この後、議長が本件を諮った処、異議無く承認された。尚、三浦信吾理事より
就任挨拶が述べられた。

議 題 2. 内航海運暫定措置事業に係わる件

本件、事務局は資料に基づき大要以下の通り説明した。

1. 平成20年度下期資金管理計画の件

(1) 平成20年度下期の資金管理計画の件

平成20年度からは、従来通り年度内上期及び下期の2回にわたり交付金交付することとなり、これにより上期の資金管理計画については本年8月に総額973百万円を交付した。

又、下期については、10月下旬頃、資金管理計画を定め、来春2月に交付する予定である。

(2) 平成20年度暫定事業の収支見通しの件

本件、9月4日現在の見通し内容は以下の通りである。

○収入予想額 9,846百万円

*但し、9月期及び11月期の納付金収入を含まず。尚、収入面では、総体的には昨年度より約10%減と予測される。

○支出予想額 7,226百万円

*この内、解撤交付金の支給総額として上期交付済分973百万円に加え、下期分として未交付分1,169百万円を折り込み合計2,142百万円を計上している。

○収支差額 剰余金2,620百万円

*尚、上記記載の如く9月期、11月期等の収入予定もあり、更に剰余金が増大する見込みである。

(3) 解撤交付金総括表（平成20年9月11日現在）の件

本件、以下の内容である。

①解撤交付金認定実績

- (i) 隻数 1,638隻
(ii) 対象トン数 約187万トン
(iii) 認定交付金額 約1,231億3,800万円

②未交付内容

- (i) 隻数 10隻
- (ii) 対象トン数 2万7,000トン
- (iii) 未交付額 11億6,900万円

2. 内航活性化プロジェクトチーム会議報告の件

本件、蔵本委員長より現在、総連合会政策小委員会で論議を重ねている平成25年度以降の暫定措置事業の在り方について資料に基づき大要以下の通り中間報告があった。

これまで政策小委員会での取りまとめの内容として大きく、次の2点についての細部検討を行っている。尚、同小委員会として11月中に案文の取りまとめを行う予定である。

I. 平成25年度～平成27年度までの施策取りまとめ

(細部項目として①交付金制度及び免除制度②同年度内の納交付金単価差等)

II. 平成28年度以降の取り扱い

(細部検討項目として①建造等納付金単価 ②旧規程承認船舶に対する建造納付金減額制度創設 ③建造納付金単価及び当面の単価設定期間 ④暫定措置事業認定船舶(孫船)の代替建造取り扱い ⑤建造納付金減額制度実施時期等)

尚、委員長は、更に付言して政策小委員会として現在検討中の以下の2項目について今般国土交通省へ照会した内容についての同省見解を以下の通り説明した。

(1) 問い：納交付金単価差の縮小如何。

見解：現行単価差は、平成16年度政府保証枠増額の際、条件として設定されたものであり同保証枠の償還が開始されていない現時点において時期時期尚早である。

(2) 問い：納付金減額制度の創設方要望如何。

見解：当局として政府保証枠減額の方角で納付金の安定納付を通じ、保証枠の償還が順調に行われることが第一義的考え、現行交付金制度は、対象船舶が無くなれば終了しこれに一体の関係にある免除制度も同様に考えることが適当である。

しかし合理的な理由・基準を示し免除制度に準ずる制度設定を求めらば検討することやぶさかでない。

更に又、同委員長は今後のプロジェクトチームの活動方針として今回の意見取りまとめが完了した後においてもポスト暫定措置事業の検討、総連合会・5組合を含めた組合のあり方等々についての検討を行うこととしていると結んだ。

尚、議長より預託金の件につき大要以下の報告があった。

預託金納付については、本年7月期より廃止となったが、総連合会政策委員会の方針により、これまでの預託金証書保有者を考慮し、当該者の預託金の解消に向け今後5組合が金納による建造者に対して証書使用方の斡旋をすることとした。

この結果、7月期においては金納者が4隻あったが全て造船所及び起工日等の事情から不調であったが、9月期においては、2隻の内、1隻が検討されている状況にある。尚、今後とも解消に向け努力していく所存だ。

この後、議長が本件を諮った処、特に異論もなく了承された

議 題 3. 内航燃料油等高騰対策の件

本件については、議長指示を受け事務局は資料に基づき大要以下の通り説明した。

燃料油高騰対策として総連合会・5組合は8月7日及び22日の両日、自民党の農林水産・運送業への燃料油等高騰対策推進議員連盟（細田博之会長、幹事長代理）に対して石油石炭税の減免・還付及び荷主の運賃転嫁の活動支援等5項目を要望した。この結果、8月22日の同議員連盟は、緊急決議として以下の通り採択し、政府等関係先へ具現化を図ることとなった。

○国内海運業については、旅客、荷主の負担力や離島航路の窮状を踏まえた燃料高騰対策を早急に検討・実施する。石油石炭税が実質的に減税され、国内海運業に還元される措置及び省効率の高い船舶の代替建造促進のための支援措置を導入し、拡充・強化する。

この後、議長が本件を諮った処、異議なく了承された。

尚、議長よりこの度、内燃研（内航燃料油研究懇話会）が決定した内航燃料油価格について大要以下の通り報告があった。

① 4～6月期価格

A重油 85,000円（前期比*1~3期 +7,450円）

C重油 75,100円（ " *1~3期 +7,600円）

② 7～9期価格

A重油 107,700円（前期比*4~6期 +22,700円）

C重油 91,050円（ " *4~6期 +15,950円）

尚、今後10～12月期の価格が注目されるが特にA重油価格については、油社のマーケット価格と船社のこれまでのコスト積み上げ方式との主張の相違があるもののコスト方式になる可能性が高いのではと思われるが、その先は不透明である。

議 題 4. 砂利船の共有建造拡大の件

本件、斉藤砂利船部会長より9月16日開催の砂利船部会において現在、鉄道・運輸機構（鉄道建設・運輸施設整備支援機構）の共有建造対象事業者の内、土・砂利・石材専用船が除外されているが砂利船の重要性及び厳しい経営的環境下から部会として今後融資対象となるよう要望するを決議した旨報告した。

この後、議長より本件実現化に向け鉄道・運輸機構及び船整協（船舶整備共有船主協会）へ要望したいと提案した処、異議なく了承された。

議 題 5. 創立50周年記念祝賀会開催要領の件

本件事務局より本日理事会終了後（17:00）開催する、創立50周年記念祝賀会の開催要領について資料に基づき説明した後、議長が本件を諮った処、異議なく了承された。

議 題 6. その他

（イ）船主連絡協議会活動報告の件

本件、小田原船主部会長より、9月26日の船主連絡協議会で取りまとめた今後の用船料改善に向けた活動方針について大要以下の如く報告した。

I. 貨物船関係及び油送船関係の組合員の参加を得て用船料適正化及び船員問題を主たるテーマとして地方大会を以下の日程で開催する。

①貨物船関係

(i) 対象：中国及び四国地方組合員

日時及び場所：10月21日（火）13:30~15:30

岡山市・全日空岡山ホテル

(ii) 対象：九州地方組合員

日時及び場所：10月22日（水）13:30~15:30

福岡市・ホテルセントラーザ博多

②油送船関係

(i) 対象：四国地方組合員

日時及び場所：10月24日（金）13:30~15:00

松山市・アイテムえひめ

(ii) 対象：中国地方組合員

日時及び場所：10月25日（土）14:00~16:00

岡山市・ミヨシノ本店

(iii) 対象：九州地方組合員

日時及び場所：10月27日（月）10:30~12:30

福岡市・ホテルセントラーザ博多

II. オペレーター訪問による用船料改善活動等については、従来通り貨物船及び油送船共に10社程度とし以下の時期に行うこととした。

○貨物船関係 来年 2月中旬～ 3月中旬

○油送船関係 本年 11月中旬～ 11月下旬

この後、議長が本件につき意見を求めた処、特になく了承された。

(ロ) 内航海運緊急連絡網の件

本件、事務局より大規模地震等災害初動時の内航海運緊急連絡網(平成20年9月1日現在)について資料に基づき報告した。

(ハ) 平成20年お中元物産品直販事業受注状況報告の件

本件、事務局はお中元の受注状況として、過去の中元及び歳暮の売上最高金である、約380万円・売り上げ個数1,029、これによる全海運手数料が約18万円となった旨報告した。

尚、塚本物産品直販委員長より補足説明と共に今般の販売促進に向け各位の協力御礼が述べられた。

(二) 今後の会議日程の件

本件、事務局は今後の全海運開催会議について資料に基づき報告した。

これにて全ての議案審議が終了したので議長は、議事録署名人として議長の他、串田理事及び高木専務理事を指名し謝辞の後15:45閉会を宣した。

以上



全国海運組合連合会 第278回理事会出席者名列 (平成20年10月1日)

理事・会長(議長)	小比加 恒久		理事	船田 孝敏
" 副会長	雑喉 平三郎		"	蔵本 由紀夫
" "	埜野 廣文		"	城戸 常太
" "	木許 作太		"	藤井 肇
" 専務理事	高木 信男		"	岡本 信也
"	澁田 政盛		"	沖本 新良
"	湯村 健介		"	吉本 圭介
"	池田 謙一		"	岡田 俊夫
"	松田 紀道		"	井下 光一
"	渡邊 輝雄		"	井村 博
"	串田 素宏		"	杉本 敏
"	飯田 節男		"	三原 廣茂
"	寺岡 洋一		"	里村 定夫
"	三浦 信吾		"	田崎 久光
"	金尾 雅行		"	西田 宏
"	藤原 浩		"	谷 伸夫
"	川中 健二		"	松尾 幸長
"	和佐 信孝		"	斉藤 通直
"	加藤 榮一		"	原田 勝弘
"	塚本 博行		"	松本 雅彦
"	小林 道明		"	池崎 富夫
"	小田原 照明		"	比嘉 榮仁

以上 44名

内訳：本人出席 44名
代理人出席 0名
委任状出席 0名

議事録署名人

議長(会長)	小比加 恒久	
専務理事	高木 信男	
理事	串田 素宏	